

# 平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 岡崎小学校
校長氏名	村上和彌
作成日	平成30年(2018年) 2月 15日

## 1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、最後までよく考え、意欲的に生きる子どもの育成

## 2 本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の具現化に向けた取組を行うために、地域先達との協働による児童への指導・支援にあたる。</li> <li>・保護者や地域との信頼関係を深めるとともに、地域の関係団体等とも連携し、児童の健全育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育を柱に、教育活動全体を通じて、「豊かな心をもち、よりよく生きようとする子ども」を育成する。</li> <li>・自分を大切にするとともに、他の人の良さに気づき、大切にしようとする心を育み、人権意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しく、わかる授業」をめざし、子供を大切にした授業を行う。</li> <li>・知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力等の育成を図る。</li> <li>・生活習慣を身につけさせ、きちんと学習に臨む姿勢を養う。</li> </ul>

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページに学校だよりや行事の写真を公開したり、学校の取組を写真や文章で紹介したりした。</li> <li>・地域のお年寄りとの交流会を企画し、学校生活の様子を劇で紹介したり、昔の話や遊びを教えていただいたりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間の途中に少人数グループで話し合う時間を設け、お互いの意見を交流し合った。</li> <li>・朝の掃除、スポーツテスト、なかよし集会などの時間に縦割りグループになり、6年生をリーダーに様々な活動に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期にベテラン教員に国語、算数の校内研究授業をしてもらい、それを参考にして、2学期に若手教員が授業を行った。</li> <li>・放課後のフォローアップの時間に指導員の先生と担任が連携して、学習の理解ができていない子供の指導を行った。</li> </ul>
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートでは、学校の情報提供について肯定的な評価をいただいた。</li> <li>・核家族化が進む中、普段あまり交流のない年代の方との貴重な触れ合いの場となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループでの話し合いで自分の考えを出すことが自信につながり、クラスの中でも発表できる子供が増えてきた。</li> <li>・6年生には下級生を思いやる優しさが醸成され、自ら考えて行動する気持ちが出てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手の教員が、ベテラン教員のいいところを授業に取り入れることが少しずつできてきた。</li> <li>・県の学習到達度調査では、5年生のD層の人数に改善が見られた。しかし4年生の基礎・基本の定着に課題がある。継続して取り組みたい。</li> </ul>
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てや経済的に困っている家庭が増えてきている。気軽に学校へ相談をしてもらったり、スクールカウンセラーの相談を利用したりできるように、啓発を進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の学習が、まだまだ実生活に結びついていない現状にある。学習したことが、日頃の行動にもっと生かせるように指導方法を工夫していきたい。</li> <li>・縦割りグループで活動する時間を更に増やしたり、充実させたりしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究の時間だけでなく、普段から授業の交流が積極的に行えるよう取り組み方法を考えていきたい。</li> <li>・学習の理解が困難な児童が増えてきており、フォローアップを更に充実させたい。</li> </ul>

## 3 その他の課題

・不登校の子供、不登校気味になっている子供が増加傾向にある。家庭との連携を密にしながら、今まで以上に現状の改善に向けた取り組みを進めていきたい。

・様々な機会をとらえて学習のフォローアップをしていきたいが、下校時刻等の関係で保護者の協力が得られなかったり、指導の必要な児童の数に対して指導者の数が少なく、全員への指導が行き届かなかったりしている。サポート体制や進め方などについて検討していきたい。